

建築一般構造

担当教員： 原井 亮治

履修年次・区分： 2・3年（自由－建築士科目）【二級・木造建築士 必修】

授業のテーマ： ここでは、建物の設計・施工について一般に使用される、木造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造に関して、架構方式等の基本的な知識を身につける。併せて、被膜構造等その他の架構方式や構造と建築造形の関係、地震と耐震構造への試みなどについても学ぶ。

この日の授業内容： 接合部と部材の設計



木造軸組工法とは、日本で古くから発達してきた工法を簡略化・発展させた工法です。最近になって接合部に金物を使って強度を増すようになりました。接合部の部材の断面欠損が大きくなると構造的な弱点となりますが、この弱点を少なくするために金物を使って補強するのです。

木材の接合部には、突起を加工した「ほぞ」、二つの木材を直角に接合する「仕口（しぐち）」、比較的長いものを同じ方向に次ぎ合わす「継手（つぎて）」があります。最近では大工の手刻みによる加工ではなく、工場で「プレカット」された木材を使うことが増えています。精度の高さや工期短縮といった利点もありますが、手刻みできる大工が減ってきているということでもあります。

(2016年11月取材)